

題

話

の

ま

若い農業者が上位独占 枝肉共進会

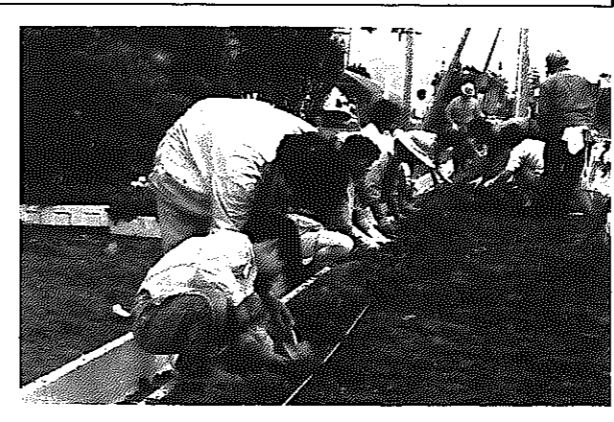
良質な豚肉生産を図ろうと、市農振協などが主催した「平成元年度市枝肉共進会」の審査が、六月十五日県枝肉公社(新津市)で行われました。審査は、出品された五十点の枝肉の重量、脂肪、脂質、肉付き、色沢などを厳しくチェック。審査の結果、今年はベテラン勢を押さえ、若い農業経営者が上位を独占しました。受賞者は次のとおりです。(敬称略)最優秀賞Ⅱ阿部和広(西笠巻新田二)優秀賞Ⅱ小島洋朗(西笠巻新田一)、小林重之(犬俣新田)、渡川大海(同)優良賞Ⅱ橋本一夫(西笠巻新田二)、近藤義雄(中山)



表彰式は6月28日に行われました

町内総出で花いっぱい 花いっぱい運動

市制施行三十周年を記念して行われている花いっぱい運動。日の出町町内会では七月二日、町内総出でシバザクラ、ペゴニヤを植えました。花を植えたのは、町内を通る市道沿いの用水掘跡地、百七十七メートルです。石ころが多く、取り除くのは、なかなかたいへん。子どもたちは一生懸命に苗を植え付けます。「町内の連帯感を高めるためにはたいへんいい事業です。町内の協力なしにはできません」と町内会長の小野さん。市民手づくりの緑化運動として、この花いっぱい運動が定着することを祈りたいものです。



子どもが主人公の会を 地域子ども会指導者講習会

地域子ども会指導者講習会が、七月九日中央公民館で開催され、子ども会の在り方や運営について積極的な意見交換がされました。当日は、子ども会の指導者十一人が参加。子どもたちの自発性・主体性を伸ばす「子ども会」をテーマに事例発表、全体討議、専門家の提言、レクリエーション、ニュースポーツの実習など一日みっちり勉強。全体討議では「行事などを子どもが決めるのではなく、親が決めてしまっている」「役員以外からの協力体制が必要」など、日ごろの活動の問題点について真剣な討議がされました。



夏休みが楽しみ 親子標本製作講習会

七月十六日、白根地区理科教育センターで親子標本製作講習会が開かれました。参加した小学生は「去年名前を調べる会に参加して、すばらしい標本を見たので、今年は是非勉強しようと思いました」と、チョウの展翅に取り組んでいました。「昆虫も植物も、乾燥には二週間程度の期間が必要ですから、お盆前には採集が終わっていないと間に合いませんね。質問があればいつでもお答えします」と同センターの江口先生。八月二十九日(火)には植物・昆虫の名前を調べる会が同センターで開催されます。



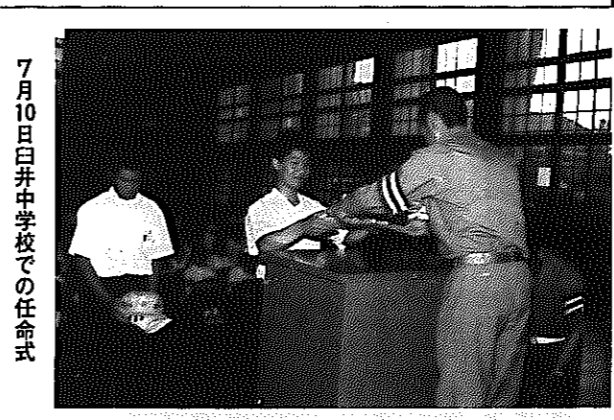
信号機がついたヨ! 大鷲小学校

大鷲小学校の校門前に押しボタン式の信号機が設置され、七月六日点灯式が行われました。児童を代表して六年生の藤原美智子さんがお礼を述べた後、一年生が元気に渡り初め。信号が変わってもつられて渡らないように、と指導を受けていました。県道白根・亀田線に面する同校の校門前は交通量が増え続け、「登校時の約三十分間の通過車両は二百台を越えます」と亀田校長先生。そのため先生方が毎朝欠かさず交通指導をしてきました。子どもたちが慣れるまで交通安全協会でも横断のしかたを指導することです。



地域を挙げて交通安全 白井支部

子どもからお年寄りまで地域全体で交通安全に取り組みたいと、交通安全協会白井支部では、小学生、中学生、老人クラブの人たちからそれぞれ三人、合計九人を交通安全指導員に任命しました。同支部では四年前から「死亡交通事故ゼロ千五百日達成運動」を展開。六月十一日に達成したばかりで、さらに二千日、千五百日へと続けようと今回の任命となったものです。中村光一支部長は「地域を挙げた取り組みがたいせつ。任命させていただいた皆さんといっしょに街頭指導を強化します」と話しています。



7月10日白井中学校での任命式

思わず抱き合う 白根ミニバス大会で初優勝

七月八、九日、新潟市で開催された第一回ミニバス選抜優勝大会で、白根小学校(宮崎幸雄校長)のスーパーエンジェルスが優勝し、八月十五、十六日に仙台市で開かれる東北大会へ出場することになりました。同チームは、打倒東中野山小(新潟市)を目標に早朝練習もしてきただけに、決勝で勝ったときは「思わず抱き合った」と渡辺主将。上田監督や応援に駆けつけた父兄の「よく聞きました。シーソーゲームは心臓によくないですね」と話す声は、初優勝のうれしさと応援の疲れでかすれていました。



絵を書くのは難しい 白根風の研究に

和風を研究して、すでに三冊の本を出版しているウエイン・ホスキングさん(米国テキサス州・四十二歳)は、七月十一日、田村和雄さん、今井三郎さん、笠原源咲さんを訪れ、白根風の作り方を勉強しました。同氏の来日は三回目ですが、白根訪問は初めて。しかし、白根大風合戦や今井さんはビデオを見て知っているとのこと、話はずみずみ。「絵を書くのは難しいが、子どもたちに風を教えるのが夢」と話すホスキングさんは、日本の風をさらに研究するため、三週間の日程で弘前市や阿蘇町など国内を回っています。

